

第二回千曲市総合運動公園基本構想策定協議会 会議録

1. 会議概要

(1) 開催日時：令和3年11月26日（金） 14：00～16：00

(2) 開催場所：千曲市役所 3階 301大会議室 AB

(3) 出席者

協議会委員：佐々木委員、小沼委員、林委員、北村（勝）委員、渡辺委員、
北村（早）委員、小林委員、新井委員、早志委員、児玉委員、
山崎委員、清水委員、千曲河川事務所 浮田副所長、湯本建設部長、
齋藤企画政策部長、荒川健康福祉部長、竹内市民環境部長

事務局：滝沢スポーツ振興課長、相沢スポーツ振興係長、小山施設整備係長、吉川主事、
宮澤生活安全課長、中山市民生活係長、
小岩都市計画課長、山本計画係長、轟施設係長、長門企画主査、池田主任、
まちづくりアドバイザー 松林氏、信州地域デザインセンター（西澤氏、征矢氏）
株式会社KRC（渡利、藤岡）

(4) 欠席者

協議会委員：小出委員、塚田委員、高村委員、
千曲建設事務所 高野企画幹兼整備課長、島田教育部長

(5) 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事

(1) 経過報告

(2) 基本構想検討の方向性

(3) 今後の進め方について

〈1〉市民向けアンケート調査について

〈2〉中高生向けアンケート調査について

〈3〉公民連携に関するアンケート調査について

〈4〉まちづくりニュースの配布について

〈5〉今後のスケジュールについて

4 その他

5 閉会

(6) 提示資料

- ・第二回協議会 送付資料一覧表
- ・第二回千曲市総合運動公園基本構想策定協議会次第

- ・資料1-1 第1回スポーツ施設部会 会議録
- ・資料1-2 第1回スポーツ施設部会 ワークショップ意見整理
- ・資料2-1 スポーツ施設利用者アンケート調査票
- ・資料2-2 スポーツ施設利用者アンケートの結果概要（単純集計）
- ・資料2-3 スポーツ施設利用者アンケートの結果概要（記述回答）
- ・資料3-1 合同部会 会議録
- ・資料3-2 合同部会 ワークショップ意見整理
- ・資料4 各エリア・施設概要とこれまでの意見整理
- ・資料5 基本構想の方向性
- ・資料6-1 市民アンケート調査票
- ・資料6-2 中高生向けアンケート調査票
- ・資料6-3 公民連携事業に関するアンケート
- ・資料6-4 サウンディング型市場調査について
- ・資料7 千曲市総合運動公園基本構想策定スケジュール
- ・資料8 総合運動公園基本構想策定ニュース No. 1
- ・白鳥園協働の公園づくりについて

2. 議事に関する質疑応答・意見交換

（1）経過報告

<資料1-1～資料3-2説明後>

小林副会長：体育館を使う団体としては、ことぶきアリーナと戸倉体育館がメインの体育館で、あとは稲荷山の勤労者体育館や東部体育館もあるが、ことぶきアリーナは新しいし、冷暖房が完備されているなど、スポーツをするうえでは素晴らしいが、なかなかその体育館は使えない団体があり、戸倉体育館や勤労者体育館を使うことになる。あまりにも格差があるので、どの体育館でもよい環境で運動できるようにしてほしい。

北村早委員：スポーツ施設部会でも子育てのことをお話しした。そのときにも言ったが、天候が悪いときや冬に雪が降って路面状況が悪いときは、子どもを外で遊ばせられずどうしても家の中に籠りつきりになってしまう。できればそういったときに遊べるようなところを併設でも、ちょっとした場所でもよいので、どこかにつくってほしい。また、スポーツ施設が近くにあると子どもも将来スポーツに興味を持ったりできるかと思う。屋内施設、もしくは屋根がある場所、水はけのことを考えた場所など、子どもが寄り付ける場所をつくってもらえたらとてもありがたい。

（2）基本構想検討の方向性

<資料4、5説明後>

佐々木会長：エリアをどうつなぐか。3つのエリアがあるが、相互に行き来でき、あるいは一体感を

感じられる、そのような状態が一番よい。どこかに書いてあったが、3エリアを結ぶ遊歩道やウォーキングコースなど、最近、朝歩いている方が増えているため、よいのではないかと思う。例えば、白鳥園で車を停めて、体育館のエリアまで行って帰ると、往復1kmくらいかと思う。そうやって歩くコースができると結構人が来る。他の公園を見てもそうである。とくに高齢者はやるのがないと大体健康づくりで歩く。歩く場があるというだけで地域の集う場、日常的に集いたくなるその要因の一つになるかと思う。そういった遊歩道を視野に入れてほしい。河川敷については、私が住んでいるのは南箕輪村であるが、そばに天竜川が流れている。天竜川は洪水など動きが激しいので、河川の利用という話は出てこないが、隣の三峰川という南アルプスから西に流れて天竜川に渡る支流がある。そこは河川の幅が広い。そこを見ていたが、35年前にテニスコートが1回の水で流され、それ以来そこは復活していない。ただ、南の方に川の流れから少し離れたところに三峰川榛原河川公園というのをつくった。そこにはゲートボール場と園路、園路では子どもがよく自転車の練習をしている。それと遊具がある。結構よいと思っていたが、河川敷の利用で課題の一つは夏の暑さである。河川敷のため、高木がなく、みんな低木である。夏のマレットゴルフについて利用者に聞いたが、ここは早朝でないとできないとのことだった。河川敷の利用は多角的に多面的に考えていくいろいろな利用ができると思う。

早志委員 : 論点をみると「バリアフリーにしたらよい」「サッカー場を増やすか」などかなり具体的であるが、この会の最終目標というか結論として、例えば、「今の体育館を壊して、建替えましょう」という結論までもっていく会なのか。今の体育館を使うのであれば、アンケートにもあったように「トイレの数を増やした方がよい」「会議室をつくる」など、そういうところまで詰める会議なのか。この会議の終点はというか最終目標はどこになるのか。

→事務局 : 第1回協議会の際もそういったご指摘があったと思う。この会は基本構想を策定する協議会である。具体的内容にどこまで踏み込めるかというところだが、例えば、体育館の建替えや野球場の建設などがある。先ほどご覧いただいたとおり、スポーツ施設利用者の声は聞いている。このあと、市民や若い世代の中高生にもアンケートを実施し、声を聞き考えていきたいと思っている。白鳥園エリアではどれだけエリアのなかで活性化し、川を挟んだ温泉街との連携も含め活用して、少しでも千曲市が元気になるイメージを持っていただき、ぼやっとしたものでも皆さんに考えていただいて、基本構想のなかで表現できればと思う。ただ、戸倉体育館の老朽化やかねてからの野球場建設の要望などがあり、どうしても具体的話にもなる。エリアのなかに一定の場所にこういうものというところまでいければと考えている。

佐々木会長 : 基本構想であるため、そういった建替えの話は出してよいと思う。ただ、すぐに具体化できるかどうかは市のいろいろな問題があるためわからない。ただ、将来像を示していく、体育館も老朽化が激しければいつかは建替えなければならない。10年先や15年先にこんなふうになったらよいという基本構想をここで討議して、ある程度ゾーニングして具体化し、市の方も将来こういったかたちにしていくというのが定まっていると部分

部分でも整理しやすくなる。そのため今の体育館の話は含めて考えてよいかと思う。

北村勝委員：以前、スポーツ公園が国交省の補助金をもらえるというなかで、現行の戸倉体育館周辺では建ぺい率が高すぎて対象にならないため、一部を白鳥園側に持っていき、河川敷を含め全体面積のなかで、補助事業の基準をクリアしていくという話を聞いたことがある。構想のなかでもっと市の側からはっきりとこの財源として国の補助を受けるにはスクラップアンドビルドしなければいけないなど、そういうものを出していかないと、今は夢を語る場になっているが、当然財源の上限もあると思う。夢を語った結果、お金がないからここまでできないとなるとあんまりである。はっきりそのあたりは出してもらってよいのではないか。市民であるため、市民の財政を認識しあう場であってよいと思う。

→事務局：財源は当然一番大事なところであり、補助金については運動公園というと都市計画のなかの都市公園というイメージがあると思うが、都市公園の場合は国土交通省からの補助金、その他にも文部科学省や経済産業省の補助金など様々ある。構想を立てて、基本計画に進む予定だが、具体的にこういう建物でこういう配置でこのぐらいの大きさということを決める。そういったことが決まらないとどこの補助金でこういった制約があるかというのが見えない状況である。財源の心配はあるなかで、そういったお金の関係は行政側が勉強しながらやっていかなければと思っている。皆さんご心配は当然あると思うが、基本構想の段階では、お金の話はそんなに気にしないということでもないが、そういった部分はわれわれが考えるとして、夢の部分を考えていければと思う。基本計画の段階で「この規模は無理なのではないか」「この施設は無理なのではないか」という議論がそこから始まっていくと考えている。現在の基本構想では、いろいろな意見・要望、こういうふうになればというのを皆さんに協議していただければと思う。

清水委員：市民のための市民による市民の施設というだけだと、税金を使って市民の利用料金だけでペイできるかという難しいと思っている。市民が使うという施設も大事だが、その施設がどれだけの財源を生み出すが、今度は施設が財源になってもらいたい。全国からお客様が千曲市に来て、千曲市を楽しんで千曲市の温泉街に泊まり、千曲市にお金を落としてもらい、「楽しかったね、いいまちだね千曲市」と思って帰ってもらいたい。私は明日からワールドカップのアジア予選を見に仙台に行く。ゼビオアリーナ仙台というBリーグの施設だが、そういった市外、県外、日本中からお客様を呼べるような施設、当然仙台に泊まって帰り、仙台にお金を落としていく、そういった施設が千曲市にもほしいと思っている。市民が落とす金額は高が知れているので、市外の方にお金を落としてもらえる稼げる施設を戸倉体育館なり、野球場なりサッカー場なり、温泉街などをつくっていただきたい。

新井委員：「する・みる・ささえる」の主語はだれなのかというイメージが、市民だけでよいのか、近隣県だけ考えているのか、日本全国考えているのか、世界をみているのかというところの考え方だと思う。するのもみるのも千曲市民だけでなく、やはり日本全国から千曲市に来るようなかたちのものをぜひ運動公園基本構想のなかに盛り込んでいただきたい。近い将来千曲市が5万人になって、5万人を切るのではないかというなかで、千曲

市が単独行政としてもっていくには、外からのそういったものが絶対的に必要だと考える。そのなかの一つでアンケートにも書いたが、よく観光の方で5か年の基本計画も立てているが、観光の計画のなかでもこの運動公園を使えるようにしていかないといけないというふうを感じるので、そのあたりの整合性をとっていただきたい。もちろん総合計画との整合性でもあるが、観光のなかでよく言われているのは、誘客のことでスポーツ誘客は千曲市にとって必要なことだと考えている。先ほどバスケットボールの話もあったが、バスケットボールだけでなく、この地域は昔からやまびこ国体のときにハンドボールの会場となったということで、今度の国体でも千曲市がハンドボールの会場になると聞いている。そういうことを考えると、やはり現状の戸倉体育館では若干狭いということなので、建替え等を考えていただきたい。プラス先ほどの観光の話で誘客を考えたときにスポーツ合宿をやるか、戸倉体育館、上山田温泉のみならず千曲市全体の夏場のスポーツ誘客というのは、コロナでダメージを受けている旅館等にとっては大きなものなので、それを使いやすいような運動公園にしていきたい。最後に最近の動向で、例えば戸倉駅の裏にキティパーク、箕輪のダム湖などインスタ映えする、写真にとってきれいな場所にはものすごく人が来ている。ぜひそのあたりを加味した公園にしてほしい。

北村勝委員：更埴にプロバスケットボールのために大きな費用をかけてホームをつくった。それがBリーグの事業で要件が引き上げられてしまい、1部の方に上がれないということになった。ただ、千曲市が誘致したのはbjリーグであるため、Bリーグは最初から話があったわけではない。なおかつこれでまた戸倉もBリーグで使いたいとなるといろいろなスポーツを楽しんでいる市民からすると全部プロスポーツが持つていくのかという意見になるかと思う。それについて危惧している。アンケートのなかでも二重の投資はおかしいという意見がある。このあと中高生のアンケートがあるが、中学生のスポーツについても、今は学校スポーツというなかで施設を管理している。早晚、これは地域に下ろされてくるため、それを受け入れる受け皿としてもしっかりとしたスポーツ施設を整備しなくてはならない。先ほど夢を語ってとありましたが、いくらでもお金があるならばどんどん建てればよいが、やはり計画になったときは相当圧縮されると考えると、プロスポーツの拠点になるか、市民スポーツの拠点になるのかは構想案のなかでまとめておかなければ、あとで禍根を残すのではないかと思う。

新井委員：私が言ったのは新しい10,000人や8,000人の体育館をつくってほしいという要望ではない。この地域に存在している観光資源の受け皿となっている宿泊およびそれに携わる方々にとって、スポーツ合宿や夏合宿を中心としたそういったものの需要がこの地域では非常に多い。現状では例えば、戸倉上山田温泉に夏合宿で多くの高校大学の方々が来られるので、その体育館を探すのに、市の方が小中学校の体育館開放をしていただければよいが、授業があるなかでそうはいかないため、小川村や安曇野に借りに行っている状況がある。圧倒的にこの地域の運動施設が足りない。Bリーグの規定に合った体育館をつくっていただければ、それはそれでありがたいが、やはりこの地域にとって具体的にはハンドボール2面ぐらいの体育館が存在した方がこの地域の特色となると思う。新しい体育館というと私が言うとバスケットボールのことと聞こえてしまう

かもしれないがそういうわけではない。

児玉委員 : 清水委員がおっしゃった千曲市にお金を落とす施設であってほしいという意見に私もすごく賛成で、それだけではもちろんいけないと思うが、合宿に来て、温泉に泊まり、「この温泉よかったね」「あの運動公園よかったね」とまたその学生たちが恋人なり、子どもなり、誰かを連れてきてくれるような施設であるとよいと思う。ただ、それについて実際の旅館の方々がどのくらい困っているかよくわからないため、差し支えなければ関係者の方にお聞きしたい。もう一つは河川敷エリアの活用についてで、水害があったときに廃棄されたごみがずっと置いてあったが、災害があったときには、そういう置く場所も必要である。それからいくら素敵な公園をつくったとしても、ハザードマップをみると沈んでしまうエリアがだいぶ含まれているのではないかと思う。それを考えると一生懸命公園でと考えるのも大事だが、流されてしまうことを思うと、建て直しの利くような公園、すぐ立ち直れるような公園にした方がよいのではないかと思う。

林委員 : 基本的に施設は足りなくて、上田市、東御市、小諸市、長野市など千曲市以外の近隣市町村の施設を借りて何とか賄っているという感じである。これは千曲市だけでなく、長野県全域でどこみても施設が不足している。私はバレーボールの関係もやっているが、中学高校の大会をするときに会場が取れなくて、全域で施設が不足していると思う。ただ、千曲市のことを考えると、施設をつくるときにこれは無料、これは有料という色分けをしっかりとの方がよいと思う。戸倉体育館も耐震の問題が出てきて、その絡みもあり様々な問題が出てきていると思う。全体として考えるのかエリアで考えるのかという話があったが、基本的には深く追及する部分はありながらも全体をとおしてみないとまずいのではないかと思う。

小沼委員 : 観光での誘致などのお話が出たので、お話をさせていただく。新井委員からもあったこの計画を観光の5か年計画とリンクさせていくというのは、正しくそのとおりだと思う。実情どういうふうになっているかという、スポーツ合宿、先ほど林委員がおっしゃったとおりである。戸倉上山田エリアは合宿を受け入れている施設は結構ある。合宿というのは長期滞在になるため、長期滞在に耐えうる旅館が戸倉上山田にはあるということで、受け入れはしていかなければいけない。両方の視点でやっていかなければいけないと思うが、どうやって誘致していくかという、やはり根本的にスポーツ施設があること、または選手がこういったところに行ったので、ここに皆さんが来るといった仕組みをつくらなければいけない。私が前回のワークショップでお話したのが、菅平がラグビーの合宿の聖地になっているが、新しい構想のなかでこちらも合宿の聖地として学校まるごと受け入れられるスポーツ施設があるというぐらいのものができると、観光の視点からみると誘致しやすい。あともう一点として、ここで抜けているのかと思うのは、子どもさんが遊ぶ施設というのは大事だが、スポーツ選手として育成するプログラムというのが抜けているのかと思う。やはり千曲市からそういった方が一人でも出れば、非常にそこは盛り上がる。盛り上がることによってもっともって人が誘致できる。その選手がここで活動していたことによって、その施設がまた聖地化されていくといったいろんなサイクルになっていく。皆さんの話から総合すると段階的にいろいろな計画をつくっていかなければいけない。ベースができているので、もう一度見直しは非常に厳しいかと思うが、好きな夢を語ってとのことだったので、私の視点ではスポーツ選手の

育成、スポーツ合宿の聖地というのを希望している。

(3) 今後の進め方について

〈1〉市民向けアンケート調査について

＜資料6-1 説明後＞

新井委員 : 関心のあるスポーツのところで、「スリーオンスリー」となっているが、正しくは「スリーバイスリー」である。5、6年前はそういう感覚がなかったと思うが、オリンピックのおかげでこういう競技がいろいろ出ている。アンケートはこっちの方向性にもっていきたいという方向付けをすればそっちに行くものであるが、これから伸びるスポーツ、例えばスポーツといえるかわからないが、ヨガなどもおうち時間が増えるなか、ヨガ人口は増えている。この千曲市内でヨガ教室をやっているかどうかはわからないが、非常に多くある。例でヨガを挙げたが、他にもそのような競技があると思うので、そのあたりのところも踏まえていただきたい。もう一つ、「河川敷内でスポーツ施設を利用したことがあるか」という設問はどのようなことを想定しているのか。河川敷でスポーツをやったかと自分自身は考えているが。

→事務局 : 千曲市は河川敷に大西緑地公園や野球グラウンドなど多々あるので、そういうことを意味している。

新井委員 : コンセプトのところで、いずれか一つとなっているが、全部思う人もいるのではないか。いずれか一つにした趣旨は。

→事務局 : 集計上難しくなること、一番主にしているところを聞きたいということでこのようにしている。

新井委員 : 市民からすると全部必要だと思う人がほとんどであると思う。いずれか一つとなるとなかなか難しいと感じた。いずれか一つというのが何か所かあるが、一つに考えをまとめるのは難しいと思うので、そのあたりを再考してほしい。

佐々木会長 : 一番重要だと考えているものということだと思う。どういうふうな問いの表現にするか検討をお願いしたい。今の質問の最初にヨガがあったが、千曲市で今行われているのか。

小林副会長 : 市民はヨガやっている。

佐々木会長 : 今行われているのであれば入れておいた方がよいかと思う。事務局が修正したもので市民アンケートを実施するというところで異議はないか。

→全員 : 異議なし。

〈2〉中高生向けアンケート調査について

＜資料6-2 説明後＞

浮田委員 : シンプルにしたいという意図は感じる。ただ河川ことは聞いていただきたい。一枚に収めたいという気持ちもわかる。「市内の公園を利用したことがあるか」という質問はあまり有意義かどうか少し疑問である。公園を利用したことがない人は少ないかと思う。スペースを活用するのであれば、そのあたりをご検討いただきたい。何を聞きたいかというところ「川で何をしたいか」というところを聞いていただきたい。選択は必要ないかと思っていて、単純に川で何も望まないのか、あるいは何かしたいと望んでいるのかを聞いて

ていただきたい。

→事務局 : 確かに公園を利用したことがない人はいないのではないかという気もするため、河川についての設問を少し取り込んでみたいと思う。

佐々木会長 : 中学生に聞くには表現が硬いような気がする。もう少し柔らかい表現の方が良いのではないか。また、これは千曲市の中学校、高校全校対象なのか。

→事務局 : 市内の中学校4校、屋代の附属中学校、高校が2校の全部を対象としている。

佐々木会長 : 事務局が修正したもので中高生アンケートを実施するという事で異議はないか。

→全員 : 異議なし。

〈3〉公民連携に関するアンケート調査について

<資料6-3説明後>

佐々木会長 : これが最初の予備調査ということになり、令和4年度の市場調査、意向調査と資料に書いてあるが行う予定なのか。その第一歩ということか。

→事務局 : 行う予定である。まず、最初の予備調査はいろいろな企業があり、例えば長野市の南長野運動公園や東和田の総合運動公園は企業が入って運営しているが、そういった企業はもともと東京の会社だったりする。当然われわれもそういったいろいろな企業を知ってはいるが、急に東京や大阪の企業に頼むとはいかないため、まずは市内の企業とした。例えば、将来市内企業が公共施設に携わってくれるというのが理想であるため、そういった意味も込めて市内企業とした。

浮田委員 : まず、このアンケートにまちづくりニュースを同封するという事によろしいか。まちづくりニュースのなかの地図で、河川敷エリアの着色がないので、印象が薄くならないかと思った。文章のなかには河川敷エリアとあるため、河川敷を含めたまちづくりという印象を少し足していただきたい。民間が参入していただくときに前提として指定管理者を想定しているのか、どういう可能性があるのか明確にした方がよいのではないか。例えば、指定管理者としてどのゾーンを使いたい、体育館ゾーンを指定管理者として使いたい、河川区域を指定管理者として使いたいなど、そういったある程度何をしたいのか、ゾーニングと企業を明確にした方が、予備調査としてはその先の展開に活きるのではないかと思う。

→事務局 : 河川敷エリアの明示については申し訳ない。修正して河川敷エリアも明示する。内容については指定管理者制度なのかなどもう一步踏み込んだ方がよいとのことだが、将来のわれわれのイメージでいうと、指定管理者よりもっと民間に参入していただきたいと思っている。指定管理者としてできるかやもう一步踏み込んだ部分でできるかについては、次の市場性調査のあたりでできればとわれわれは思っている。本当に認識の部分を知りたいと考えている。

清水委員 : 予備調査の市内企業の規模の件で、従業員数一定以上とのことだったが、まず、具体的な数を教えていただきたい。また、従業員数だけで規模を判断するのか。例えば売上高などがあるのではないか。

→事務局 : 従業員数は50人以上としている。売上高については、市が所有しているデータで不明確なところがあり、従業員数でいこうと考えている。

佐々木会長：事務局が修正したもので公民連携に関するアンケートを実施するという事で異議はないか。

→全員：異議なし。